

全国高等専修学校協会パネルディスカッション

# これからの高等専修学校教育の あり方について

高等専修学校（専修学校高等課程）は、都道府県知事の認可を受けた後期中等教育機関として、実務面にウェイトをおいた教育を行っています。

多様化する生徒と、そのニーズに応えるための様々な取り組みは、教育内容はもとより高等学校と並ぶ進路先として注目されています。

パネリスト = 敬称略 =

- ◇ 清水 信一 全国高等専修学校協会会長 / 武蔵野高等専修学校（東京都）
- ◇ 大岡 豊 全国高等専修学校協会副会長 / 大岡学園高等専修学校（兵庫県）
- ◇ 岩谷 大介 全国高等専修学校協会理事 / 岩谷学園高等専修学校（神奈川県）

コーディネーター

- ◇ 岡部 隆男 全国高等専修学校協会副会長 / 郡山学院高等専修学校（福島県）

全国高等専修学校協会管理者研修会

平成29年6月15日 東京・アルカディア市ヶ谷

**岡部** これより「これからの高等専修学校教育のあり方」というテーマでパネルディスカッションを始めます。高等専修学校の今後のあり方が主なテーマではありますが、これまでの高等専修学校教育を振り返りつつ語り合う時間にしたいと思います。よろしくお願ひします。

## 全国高等専修学校協会の歴史 生徒の格差是正を求める戦い

**清水** 本研修会に初めて参加された方もいらっしゃるのですが、これまでの高等専修学校教育の歴史をたどりながらお話しさせていただきます。昭和50年の学校教育法の一部改正により専修学校制度は発足し、翌年4月から専修学校教育が始まりました。その後10年が経過し、一条校との格差問題が持ち上がり、高等専修学校において高等学校卒業資格を得られないことが大きな課題となっていました。先輩の先生方のご尽力が実り、昭和60年9月19日に修業年限3年以上の高等専修学校卒業生に大学入学資格を付与する告示がされました。そして昭和61年の5月に、現在の当協会の前身である高等専修学校指定校協議会が発足しました。初代会長は村田簿記学校の村田照子先生



清水 信一氏

でした。その後平成4年に2代目会長の柏木照明会長にバトンタッチされ、名称も現在の全国高等専修学校協会に変更されました。その前年の平成3年には、「災害共済給付制度」に加入できないという理由で高体連への参加が認められなかったことをきっかけとして、埼玉県で独自に第1回全国高等専修学校体育大会を開催しました。その後も格差是正の一つとして、平成6年に大学入学資格付与指定校生徒のJRの通学定期が、高校と同率



全国高等専修学校体育大会開会式

の割引になりました。

当協会は平成15年度に、いち早く一条校との格差是正のために、一条校化を目指すことを事業目標に定め、独自で「専修高等学校」という名称の使用を検討、設置基準も自分達で作成、専修学校教育振興室との勉強会を開始しました。名称使用は結果として却下されましたが、格差是正の一環として平成16年3月30日には、ハローワークにおいて高等専修学校卒業予定者に対し高校卒業予定者と同じ求人情報が提供されるようになりました。平成18年には全専各連の総会において、高等専修学校だけでなく専門学校を含め一条校化を目指すことが決議され、一条校化推進本部が立ち上がりました。

平成22年4月に公立高校授業料無償化に伴い、高等専修学校も私立高等学校と同等の就学支援金支給の対象になりました。さらにもう一つの大きな動きとして、平成25年に東京都を除く道府県で、授業料減免のための経費に対して地方交付税措置が講じられることになりました。そして、平成28年度に発達障害者支援法の改正、平成29年度のスポーツ振興センター法の改正による災害共済給付制度への加入が実現するなど、次々と格差

是正が図られています。最後に残るのは、経常費補助と考えています。

中教審「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の報告にありますように、公教育機関として我々高等専修学校がやるべきことは、教育の質の向上、そして説明責任を果たし、情報開示することです。自己点検・評価を行い、結果を開示する。大阪府の高等専修学校においては、既に行われています。これは大阪府から補助金を受けるための要件であり、つまり補助金の対象校になるためには自らやるべきことをやらなければならないという事だと思えます。当協会で毎年行っている実態調査アンケートは、自己点検・評価と結果の公表を行っているかという項目を入れて、実態把握をしながら未実施の学校にアドバイスを行い、実施校を増やす努力をしています。公教育機関として必要なことをすべてやり、言うべき事を言う。これが今後の振興策の大きなテーマだと思っています。

**岡部** 今回のパネリストである清水先生は本協会の制度改善研究委員会の前委員長、現委員長が大岡先生です。岩谷先生もその委員会の中心メン



バーです。年齢構成も様々で、清水先生は60歳代、大岡先生は50歳代、岩谷先生は40歳代半ばです。それぞれのお立場からご意見をお聞かせ下さい。

## 高等専修学校の独自の教育を 理解して頂くことから始めることが大切

**大岡** 高等専修学校は通信制高校とのライバル関係が問題になっています。通信制高校は平成24年のデータですが18万9千人の生徒がおり、学校数は217校、その中の20校が株式会社立になっています。企業であれば利益を追求しつつ学校運営をしなければなりません。極端になると利益が上がるなら教育の質は多少悪くても、その一方でサービスだけは徹底するという学校になります。ライバル関係とかどうかは議論が分かるとしても、通信制高校ならではの良さは確かにあるでしょう。しかしとくに広域通信制高校については、他県にどんどん分教室を作っても認可を受けた都道府県しか管理できないことから、社会問題化しました。生徒数は現在も変わらず18万人ほどですが、公立の学校が減って私立が増え、そのうち株式会社立が増加しています。そこにビジネスチャンスがあると知った法人や会社が次々と参入しているのが実態です。

今後は少子化の時代にあわせ、学校の特性をしっかりと出していき事で生徒数を増やし、高等専修学校ならではの自由度の高い教育を行う事が一番重要だと思います。その財政基盤も大事です。私学助成法は一番の壁ですが、実際に良い教育を行っているかの判断は一般の人々が行うものでしょう。その学校は大事な学校だから生かしたいと言われる教育が必須になります。

通信制高校は脅威であります。高等専修学校や高校の良さ合わせて今後を考えなければいけない時期に来ていると思います。少子化は進み、出生数は97万人位になっていますが、今後も大幅に増えることはないと思われています。そこをどうするか、時代のニーズもあるとは思いますが、今後は公立中心に考えるのではなく、私立学校の良さをどんどんアピールしていくべきだと思います。

**岩谷** 神奈川県にあります岩谷学園の岩谷と申します。以前は高校や中学を訪問し生徒募集に関わっていました。私が中学を訪問すると、必ずと言ってよいほど最初に「高等専修学校って何ですか?」と聞かれます。「専修学校の高等課程です」と答えると、かなりの割合で中学校側から、「サポート校と一緒にだよね」と言われました。それは間違いで、神奈川県認可を頂いている学校であ



大岡 豊氏



岩谷 大介氏



ると説明するところから始めていました。その後、本協会の制度改善研究委員会に関わらせて頂いたことで、全体像をしっかりと理解することができました。その中で今、情報公開の必要性について身に染みて感じています。学校を訪問すると、何人の生徒が入学して卒業し退学率はどれ位か、専門学校や大学等への進学状況はどうか、質保証の意味でどういった教育を行っているかなど、基本的な部分を聞かれます。委員会で調べてみると学校によってかなりの格差があることを知りました。その差を埋めるためにはしっかりと情報公開をすること、全ての学校が国、県、そしてこの当協会へ情報を提出し、開示していくことが大切です。これから入学される方々に情報を理解して頂くことが必要だと感じています。

**岡部** ありがとうございます。岩谷先生から実際に中学校に行き生徒募集した経験では、高等専修学校を理解していない方がほとんどだったというお話がありました。高等専修学校の中には専門学校という名称の学校もあります。そうすると中学生の保護者は、専門学校進学の際は高校卒業後に考えれば良いという反応になってしまうそうです。2001年の『サンデー毎日』に、高等専修

学校で不登校生が立ち直るという記事が出た事があります。それまで高等専修学校がマスコミに取り上げられたことはほとんどなく、画期的な記事でした。少し後には文部科学省が高等専修学校に関するパンフレットを作成しました。また、今から4年前の平成25年には第2期教育振興基本計画が閣議決定され、その中には高等専修学校という言葉が登場し、実践的な職業教育を通じ多様な若者の自立を支援する教育と書かれています。このように政府にも認知されているのですが、知名度は中々上がって来ないのが実情です。

進路指導協議会の中学校の部会長の方から、「高等専修の方は宣伝が下手ですね、サポート校の人は毎日来ます」と言われました。中身はともかく毎日来校して宣伝していくそうです。そうなると中学校の進路指導の先生方にはサポート校という名称が刷り込まれます。広報やそのあり方について、清水先生はどのようにお考えになりますか。

## パンフレットの作成やイベントの開催で 地域の生徒にアピールしていく

**清水** 今日は東京の学校が7、8校出席していますが、5月の連休明けに東京都高等専修学校振興委員会は、総会と勉強会を行いました。今年の勉強会は、通信制高校がどのような広報活動を行っているのか、その成功例をうかがうため、東京の通信制高校の校長先生を講師にお招きしました。通信制高校でも特にたくさん生徒を集めマスコミにも取り上げられている学校ですが、その広報費の額を聞いて驚きました。正直、我々が出せる金額ではありません。一方、通信制高校は高等専修学校教育に注目しているのが分かりました。その学校は比較的新しい通信制高校ですが、高等専修学校の先生方のパワーやまともは素晴らしい、通信制高校も見習うべきと話していました。逆にこちらは通信制高校のアイデアの豊富さを学び、広報活動を行うべきだという感想を全員が共有できた会になりました。



岡部 隆男氏

**大岡** 兵庫県はどちらかと言えば進学県で、大学進学率は全国トップクラスです。進学校として灘高校、甲陽高校といった超エリート校があり、広報宣伝の必要がない学校も多いです。一方で宣伝しない事で隣の大阪府へ生徒が流れてしまうという現象も起こり、地域事情によるジレンマがあります。対策として県に高等専修学校を網羅したパンフレットを出して頂きました。現在、兵庫県内は一学年に5万2、3千人の中学生がいるのですが、全員に配布しています。これは各中学校が責任を持って配って下さいという形です。他には個々の学校というより、高等専修学校で学べる職業について知ってもらうという活動もしています。通信制高校との違いを分かっている事は、ある面では致命的ですが、反面、高等専修学校が実践的な勉強をしている事をきちんと知ってもらえれば良いのではないかと考えています。

シカゴ大学のヘックマン教授という方が『幼児教育の経済学』という著書で、小さな子に勉強を教えると、将来あまり生活に困らないと書いています。日本でも高校まで無償化、大学も一部無償化という話がありますが、同じ境遇、環境であれば、やはり良い教育の学校へ行かせた方が将来のためになるという話です。ただ全員が勉強を得意としている訳ではないし、勉強嫌いや苦手な子どもはどうするのかというテーマがあります。そこで高等専修学校が一つの道になるのではないのでしょうか。ヘックマン教授は教育環境、居場所があることが大切だとも言っています。例えば勉強は出来なくてもとても優しい子という特徴があったり、技術や技能も含めて一つでも二つでも得意な事を引き出す教育行えば良いのだと思います。

そういった教育を新聞に取り上げてもらえば、無料で出来る広報になります。私の学校でも年に数回、取り上げてもらいたいという意味も込めて、教育の内容をアピールし続けています。

**岩谷** 神奈川県協会の中には高等専修学校委員会というのがあり、県下全部の中学校に認知、理解をしてもらう目的で4つの事業を行っています。

まず全校の紹介リーフレットと各校の詳細な情報が書かれたガイドブックを作成し、分担して全部の中学校を訪問して配布しています。高等専修学校は神奈川県内に11校なので1校あたり60校ほど6、7月頃に訪問します。2つ目は中学校へ出向いて、「仕事の学び場ジュニア」という体験型授業を行っています。それは広報というより教師や生徒に職業理解してもらうことが目的です。神奈川県にある高等専修学校の分野から、希望を募って出向きます。例えば、岩谷学園ならパソコンやコンピューターやビジネス関係の教育について、中学生と先生方にお話しします。3つ目は公立学校の先生方と意見交換を毎年実施しています。中学の進路指導協議会の校長先生や管理職の先生方12～13名と、我々も11校から出席し、意見を交換します。4つ目はメインの事業になります。神奈川では私学学校展というのを、みなとみらいの国際展示場で県内の私学の高校が集まり、そこに中学生が参加して進路を見つけるというイベントを行っています。最寄駅から国際展示場の途中にホールがあるのですが、そこで同日に高等専修学校展というイベントを開催しています。いわゆる同じターゲットの中学生と保護者が私学展に行く機会に、高等専修学校についてもしっかりと理解してもらおうという主旨です。ファッションの学校ならファッションショー、美容系やパソコン系もそれぞれイベントを行い、高等専修学校についても体験や理解をしてもらえませんかというスタンスで行っています。それら4つの活動が柱になっています。

さらに岩谷学園の例ですが、私は先ほど広報担当としてたくさんの中学校を回っていたとお話ししましたが、それを数年前からそれぞれの先生に訪問してもらうことにしました。広報も大事ですが、しっかりと当校の先生と中学校の先生とが教育に関して、子供たちに関して意見交換をする機会は貴重です。その後は少し高等専修学校への見方と流れが変わったように感じています。

## 経常費補助は第一の課題、特別支援関係補助金も視野に入れた勉強会を

**岡部** ありがとうございます。広報についてのご意見を頂戴しました。続いて本題であります「これからの高等専修学校のあり方」についてディスカッションしたいと思います。私は今後の一番の課題は、さらなる格差是正だと考えています。清水会長、補助金や他の問題も含めてご発言頂けますか。

**清水** 私は唯一経常費補助だと考えています。しかしその運動は各都道府県で行うしかないと思います。私学振興助成法の規定では、我々は経常費助成の枠の中に入っていないため、国の施策では出来ません。地方自治法に基づく補助金をもらっている訳ですから、各都道府県に向けて運動するしかありません。各県専各に委員会を作って頂き、まとまって活動することが大事です。あとは教育の質向上、説明責任、情報開示というのが一番のテーマになるでしょう。やるべきことを全部やって要求するというスタンスは変えたくないと思っています。

**大岡** 全く清水先生と同じ意見で私学助成だけだと思います。それに向かって各地域でどう活動するのが重要になります。多分単独では動きが取れないと思うので、まとまりを持つての運動をお願いしたいと思います。

**岩谷** 私も同じですが、経常費補助の問題をしっかりとまとまって勉強会から始めて頂きたいということです。現在、東京都と山形県、長野県では発達障害関係の補助金が出ています。平成29年2月に制度改善研究委員会から各学校にお配りした書面には、発達障害関係や不登校の生徒は一条校の高校の6倍、8倍の率で、生徒を高等専修学校で受け入れていると記載されています。そのような現状も踏まえて要望する必要があると思っております。

**大岡** 兵庫県の方でも勉強会があるのですが、学校基本調査や実態調査にこの要素を取り入れて頂きました。基本データを取る方法としては、各学校から県が強制的にデータを集めるようにしています。最近の文部科学省では細かいデータを集めていますが、それ以外にも県内に何人が就職し



たか、該当する生徒が何人いるかといったことや、スクールカウンセラーがいるか、養護教員がいるかといった質問も入れてもらいます。新たな取り組みに兵庫県は向かっています。

**岡部** 格差是正ということで補助金問題についてお話し頂きました。特別支援の件は長野県が3万円上乘せした事を受けて、福島県では私学振興大会を知事や県会議員出席の下で開催しています。幼稚園協会、中高協会、専修学校協会等が協力して、約30万名の請願署名を集めました。その中で高等専修学校は、特別支援を必要とする者への補助金の創設という要望をしていますが、まだ採択はされていません。県の関係者は大変ですと理解は示して下さっていますが、増額には至っていません。ぜひ長野県に続いて、補助金という形で繋げていきたいと考えています。

福島県専各の中には高等専修学校協議会という組織があり、県会議員の先生方による専修学校振興議員懇談会も作って頂いています。専修学校の様々な問題をお願いする中で、高等専修学校からは特別支援を必要とする生徒への補助金の創設を上げていますが、未だ具体的な動きはありません。もう一つ、福島県では計画進学率を一点突破しようという運動をしました。福島県の場合、私立高校と公立高校の割合は2対8です。県立高校は沿岸部では原発問題があつて定員が埋まっています。対して私立高校は頑張つて健闘しています。中高協会と共闘したいと思ひ努力しましたが、うまくいきませんでした。次に福島県教育庁高校教育課へ行き計画進学率の話をしたのですが、分かっては下さったものの残念ながら大きなムーブメントにはなっていません。議員との繋がりがもっと必要だといった意見も出ています。

**清水** 計画進学率について成功しているのは愛知県で、確実に高等専修学校への進学率が増えています。次に大阪府です。全国にある高等専修学校の総在籍者数を支えてくれているのはその愛知と大阪であつて、東京都は苦戦しているのが現

状です。計画進学率の件では、東京都の場合、中高協会に初めてお話をしたとき、中高協会会長から、ぜひやりましょうと即答して頂きました。次に東専各の会長名で東京都教育委員会に要望を出したところ、答えはノーでした。最終的に文部科学省の当時の専修学校室長に東京都の私学部に同行して頂き、東京都の計画進学率の中に高等専修学校を加えて欲しいと話して下さいましたが、そこで止まったままになっています。

**大岡** 商業高校など専門高校の数は減っています。一条校との格差是正という面からも職業教育はどこが支えるのかという論点はあると思います。公立高校には総合学科がありますが、専門性に特化する形にはなっているものの普通科との抱合せのようになっていきます。まず公立高校は統廃合を進めていますが、これは生徒数減少に伴う統廃合ですから、どこまで進むのが問題です。この状況で高等専修学校に生徒を集めるには、その魅力についてのアピールが必要です。通信制高校が、ただ高卒というチケットを出す教育であるなら、高等専修学校にはどのようなチケットがあるかという点をしっかり考えなければなりません。よく会長がおっしゃる経済的自立支援、自分で食べていかなければならないという事が、一つキーワードになるかもしれません。さらに専門性をどう高めていくかという取り組みをしっかりとやらないといけないと思います。

**岩谷** 格差是正について県会議員の先生方と意見交換をした時に感じたのですが、高等専修学校とは何か、全体をしっかりと見せていくことが重要だと思います。教育の特色だけでなく全ての情報を開示する必要があるということです。

**岡部** ご協力ありがとうございました。以上を持ちましてこれからの高等専修学校のあり方についてのパネルディスカッションを終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。